

## 教授就任



折茂 彰 教授

## 教授就任にあたって

医学研究科分子病理病態学 教授  
医学部病理・腫瘍学講座 教授（併任）

折茂 彰

2020年3月1日付けで大学院医学研究科病理・腫瘍学教授を拝命いたしました。就任に際しましては、小川秀興理事長、新井一学長、木南英紀学長特別補佐、服部信孝医学部長、高橋和久医院長をはじめ、理事会、教授会の先生方より格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は1989年に順天堂大学医学部を卒業し、1994年に東京大学医学系第三種博士課程修了（医学博士）し、1995～2000年埼玉医大第2生化学教室（村松正實教授）で分子生物学を学びました。2000年より癌生物学を勉強するために、米国ボストンのマサチューセッツ工科大学ホワイトヘッド研究所（Robert A. Weinberg教授）に留学しました。当時、分子標的薬イマチニブの発見、ヒトゲノム計画の完了や癌幹細胞仮説が提唱され、バイオメディカルの研究が世界で急速に進んでいる事を実感し興奮しました。ボストンでの私の仕事は、ヒト乳癌間質に存在する線維芽細胞が癌の増殖や血管新生を促進するメカニズムを分子レベルで明らかにし、癌進展における癌微小環境の重要性をハイライトしました（Orimo A, et al., Cell 121, 335-348, 2005, Google Scholar citation index : 3314）。さらに2007-2012年に英国マンチェスターのパターソン癌研究所癌間質研究部門にグループリーダーとして赴任し、癌内線維芽細胞の癌促進能獲得の分子メカニズムを明らかにしました（Kojima Y, et al., Proc. Natl. Acad. Sci. USA., 107, 20009-20014., 2010, citation index : 541）。そして2012-2020年本学の病理・腫瘍学にて、癌内線維芽細胞が癌細胞の浸潤・転移を促進するメカニズムを明らかにしました（Matsumura Y, et al., Life Sci Alliance, 22, 2, 2019）。今後は、線維芽細胞と癌細胞や癌微小環境ネットワークとの相互作用の理解および癌内線維芽細胞を標的にした治療シーズの開発に焦点を当てて研究を進める予定です。

過去40年の癌研究は、重要なドライバー遺伝子の変異検索など癌細胞を中心に行われてきました。しかしながら、癌細胞の分化、浸潤・転移や治療抵抗性は、癌微小環境よりのシグナルやエピゲノム異常により制御されていることも明らかになりつつあります。また治療に関しては、抗癌剤や免疫チェックポイント抑制剤がある種の癌では著効する一方、これらの治療が非常に限られた効果しか期待できない難治性癌も増加している現状があり、今後はさらに基礎研究を充実させて臨床に還元することが極めて重要です。

病理・腫瘍学では、将来性豊かな若手研究者が才能を見いだせるような研究環境を作り、広い共同研究ネットワークを構築し、失敗を恐れない挑戦的な精神をもってsolidなサイエンスを目指します。そしてヒトの役に立つ研究を夢見て日々精進し、社会福祉の改善に尽力するとともに本学の発展に寄与させていただき所存でございます。皆様の一層のご支援を今後とも受け賜りますように、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

おりも あきら  
折茂 彰

### 【学歴及び職歴】

- 1989年3月 順天堂大学医学部 卒業
- 1989年4月 医師国家試験合格
- 1989年4月 東京大学医学系第三種博士課程臨床内科学入学
- 1990年4月 社会保険中央病院 勤務
- 1991年4月 自治医大大宮医療センター 勤務
- 1991年11月 東京大学医学部付属病院 勤務
- 1992年4月 埼玉医科大学第2生化学 出向
- 1994年3月 東京大学医学系第三種博士課程 修了(医学博士)
- 1995年4月 埼玉医科大学第2生化学教室 助教
- 2000年4月 同 講師
- 2000年9月 米国Whitehead Institute, MIT (postdoctoral fellow)
- 2007年7月 英国Cancer Research UK Manchester Institute (group leader)
- 2012年6月 順天堂大学医学部病理・腫瘍学講座 准教授

2020年3月1日より現職